



2024~2025

国際ロータリー第 2730 地区

週報 佐土原ロータリークラブ

The Magic
OF Rotary

RI テーマ
ロータリーのマジック

会長：小牧 義隆 副会長：福島 城史 RI2730 地区ガバナー 笹山 義弘
 幹事：藤浪 淳志 会計：田辺 浩嗣 中部グループガバナー補佐 戸高 勝利
 事務局：押川 有里 会報委員：杉尾 一樹 RI 会長テーマ ロータリーのマジック
 例会場：コンベンションセンター 2730 地区スローガン 「ロータリーのマジックで
 ロータリー楽しもう」
 例会場住所：宮崎市大字塩路浜山 例会場 TEL :0985-21-1133・FAX 0985-21-1144
 事務局住所：宮崎市神宮東 2 丁目 6-26 TEL0985-72-7600 FAX0985-72-7600

第 1689 回例会 令和 6 年 11 月 6 日(水)

<今日のプログラム>

- 1.点 鐘 会長 小牧 義隆 君
- 2.ロータリーソング ♪ 手に手つないで ♪
- 3.4 つのテスト 本日の担当者より
- 4.会長の時間 会長 小牧 義隆 君
- 5.幹事報告 幹事 藤浪敦志 君
- 6.出席報告 出席委員より～
- 7.委員会報告
- 8、HPBOX 報告
- 9、会員卓話 永野陽子君・横山誠樹君
- 11.次週例会案内 SAA より
- 12.点 鐘 会長 小牧義隆 君

第 1688 回例会記録 令和 6 年 10 月 23 日 (水)

■会長の時間 会長 小牧 義隆 君
 皆さんこんにちは、今日は夜間例会です、親睦委員雄横山誠樹君よろしくお願ひします。

■幹事報告 幹事 藤浪敦志君
 幹事報告はありません

■出席報告 出席委員
 本日の出席は 12 名 46%です。

■親睦委員会 横山誠樹親睦委員長
 今日は魚旬にて夜間例会です。参加者が少なくてさみしいですが、楽しく歓談して、親睦を図ってください。



例会出席のメリット

2001 年規定審議会に、例会を 1 ヶ月に 2 回、年間 24 回開催してもよいという選択権をクラブ理事会に任せるといふ提案が RI から出されましたが、日本を中心とした良識あるロータリアンの大きな反対の声に驚いたのか、事前に撤回するという出来事がありました。もっともこの提案は、RI のダメーとなった幾つかのクラブから出されましたが、結果的に否決されました。近年、ロータリー運動を成立させる必要条件とも言える、一人一業種による職業分類と毎週の例会を緩和しようという動きが強く、今回の規定審議会でも、毎週一回の例会こそ守り通せたものの、なし崩しに緩和されていた一人一業種制度は完全に崩壊し、今後は 10% の同業者が同一クラブ内にひしめくこととなります。さてここで、我々は、何のために例会に出席しているのかを思い起こしてみたいと思います。ロータリーの職業奉仕は、例会に於ける会員の事業上



の発想の交換によって行われてきました。更に、例会を通じた会員同士の切磋琢磨によって、真の親睦が形成されてきました。従って、例会出席はロータリー運動を形成するための必要条件であり、更に、密度の高い事業上の発想の交換をしたり、親睦を深めるためには、頻りに例会を持つことが必要になります。米山梅吉が述べた「ロータリーの例会は人生の道場である」という言葉を、今一度思い起こす必要があります。職業奉仕の理念が忘れ去られ、ボランティア活動一辺倒となった昨今は、当然の結果として例会が軽視される傾向が強まっています。ボランティア活動を実践するだけならば、例会などしてもしなくても一緒ですし、形式的な例会に参加して昼飯を食べるよりも、ボランティア活動を22する方がよっぽど増しだという解釈がまかり通ります。こういった現実が、理事会が認めた委員会活動を例会出席の補填として認めようという考え方を生みます。ロータリー運動の必要条件である例会出席と、数ある奉仕活動の一形態に過ぎないボランティア活動が同列に、いや逆転して考えられる悲しい現実です。RIや一部の国のクラブが職業奉仕を忘れ去って、ボランティア活動にうつつを抜かすと非難することは簡便ですが、その一方で私たちが、職業奉仕の理念形成や人格形成の場として、有意義な例会を開いているかどうかを反省する必要があります。僅か一時間の例会で、それも、会長の時間や幹事や委員会の報告で15分、卓話で30分、肝心の会員同士が事業上の発想の交換をする時間は、食事時間を含めて15分しかなく、例会は完全に形式的なものになっています。その卓話すらも部外者を呼んで、余りロータリーとは関連のない話を聞くのでは、何のための例会かということになります。クラブの会員は、事業に従事すべき大切な時間を割いて例会に出席しているのです。事業で得られるprofitsをはるかに超えるprofitsが、例会出席で得られてこそ、例会に出席する意味があるのです。果たして皆さま方のクラブは、こういったメリットを例会参加者に与えているのでしょうか。例会出席によって大きなメリットを得るといふ、ロータリアンの特権を享受するために例会に出席するか、それとも義務としていやいや例会に出席するかによって、会員の態度に大きな差が現れてきます。積極的に例会を楽しむのか、それとも必要最低限にしか出席しないかの差でしょう。そして常に物議をかもすのが後者の立場の人たちであることは、論を待ちません。毎回、ホームクラブの例会にでることが原則ですが、仕事や健康上の理由でそれが不可能な場合のために、メイクアップの規定があります。23会員には世界中のどこのクラブでもメイクアップをする権利があります。これは、全てのクラブは、定められた場所、曜日、時間に、必ず例会を開かなければ

ならないことを義務付けられていることを意味します。従って、万止むを得ない事態以外は、みだりに例会変更や休会をすべきではありませんし、近隣クラブに例会変更の通知をだしたからと言って、済む問題ではないのです。このあたりのことがルーズになって、例会変更をして親睦会をすることが日常化したり、今回の定款改正で、年4回まで休会が認められたことには、大きな問題があります。毎週1回の例会を大切にし、それに加えて、奉仕活動の実践やレクリエーションを楽しんでこそ、ロータリー・ライフを真にエンジョイできるのではないのでしょうか。クラブがこういった状況ですから、メイクアップをする会員も、「メイクアップをしたら、たまたま例会をしていなかった場合は、メイクアップをしたものと認める」という規約を逆手にとって、わざわざ休会のクラブをめざして、サインだけして帰るといふ、恥ずべき行為が日常的に行われているようです。中には、代返ならぬ、メイクアップを人に頼むとか、電話によるメイクアップとか、あらゆる手を使って例会出席を免れようと努力する様は、異様としか言いようがありません。また、卓話の時間が始まるや否や、ビジターがゾロゾロと席を立つという異様な光景もしばしば目にします。確かに、例会時間の60%参加すれば出席とみなされます。大切な会議があったり、急患の往診ならばいざ知らず、ビジターの全員が、毎回、そういった特殊の条件下にあることなど到底考えられません。都市部では、毎日、どこかのクラブが例会を開いているのですから、途中退席をしなければならぬ日を選んで、わざわざメイクアップをする必要はないはずで、ロータリアンでなくとも人間の常識として、他24のクラブを訪問した時は、最期までいるのが当然ではないのでしょうか。休まずに例会に出席するに越したことはありません。しかし、まやかしのメイクアップをしたり、途中退席をするくらいならば、潔く欠席する決断も必要です。定款によって、メイクアップを含めて60%出席することが義務付けられているのですから、あまりにも出席率にこだわり過ぎるのも問題です。外国のクラブの出席率は60%、70%が普通であり、地区内クラブの平均出席率が90%以上というのは、日本だけに見られる特殊現象です。先ほど述べた「休会と知りつつのサイン・メイクアップ」や「食い逃げ」現象は、日本特有な現象であり、外国のクラブでは途中退席者は殆どみかけません。実質的に例会に参加しないで、高い出席率を誇ったとしても、何の意味もありません。クラブは会員にメリットを与えるように例会運営を抜本的に見直し、会員は自らのクラブでも、他クラブのメイクアップでも、真摯な態度で例会に参加するように努力する必要があることを痛感します。

2001年6月7日 25 源流の会 田中 毅著